

## 第9回奈良ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西浩明

◇開催日時 2021年1月7日(木) 19時～21時30分

◇方法 Zoomによるオンライン研修

◇参加者 【現職教員等】 圓山、中村、三木、石田、中澤敦子、川崎  
【学生】 亀井、狗飼、上田、足立、下原、北  
【大学】 河野(大分大学)、大西 計14名

◇内容 指導案検討

### 1. 「黄金比・白銀比」 亀井望太さん(学生)

中学校3年数学科における学習指導案

数学のよさを実感させ、数学に対する生徒の興味関心を高めることが数学の授業に求められている。  
黄金比を題材にすることによって、子どもたちの数学への興味関心が高まるということが実際に研究結果として示されている。

「最もバランスがよく美しい」とはどういうことなのか、一体だれが決めたのだろうか、と批判的に考えさせる。

西洋には黄金比、日本には白銀比が多く用いられていることを知る。

身の回りのものや自然界にも、黄金比や白銀比が潜んでいることを知る。

(黄金比)ミロのヴィーナス、ピラミッド、モナ・リザ、パルテノン神殿、名刺、トランプカード、オウム貝の殻、ヒマワリの種、Appleのロゴ、爪や手のひらの幅と長さなど。

(白銀比)法隆寺、銀閣、見返り美人図、スカイツリー、風呂敷、コピー用紙、キャラクターなど。

「なぜ黄金比や白銀比が美しいと感じる人が多いのか」考えさせたい。

黄金比や白銀比をどんなところに活用できるだろうか? → デザインや学習に活かす

みんなが「美しい」と思うものを、本当に美しいのかと批判的に考えるのがよい。

数学として終わらせるだけでなく、技術や美術との教科横断的な学習にしていくことも。

題材としてはおもしろい。

しかし、ESDとの関連も分かるが、黄金比や白銀比が持続可能な社会にどう結びついていくのか。

良し悪しではなく、時間や空間を超えた普遍的な価値について追究することは意味があるのでは。

黄金比や白銀比が、なぜ時代を超えて「美しいもの」とされてきたのか

よりよい未来の社会では、どう扱われていくのか などについて考えられるのではないか。

美しさを追求できる社会は平和・公正な社会

SDGsの目標で言うなら、⑨よりデザイン性、機能性をもった新たな製品づくりや、⑩まちづくり、⑯平和・公正というところと関連させられるのではないか。

## 2. 『ふるさと』～自分のふるさとについて考えよう～ 狗飼菜々子さん（学生）

小学校6年音楽科における学習指導案

歌詞の意味を考え、歌わせる。

「うさぎ追いし かの山」などの歌詞のような風景を自分たちのふるさとに置き換え、どんなものがあるか、またその風景の良さについて考えさせる。

日本の風景がそれぞれの時代の環境問題とともに変化している。

→自分たちの町に何が起きたら守りたいものが壊れてしまうのか

自分たちがどんなことを繰り返すと、街の風景は壊れるのか

ふるさとの美しい風景を守っていくために自分が出来ることを考えさせる。

そして、自分たちのふるさとに想いを馳せながら「ふるさと」を歌う。

資質・能力、価値観に音楽科としての要素を入れるとよい。

最初と最後の歌唱の違いをどう評価するのか。

国語の音読でもよくするが、どこがどのように変容したのか明確には分からない。

個人の思いなど、心情的な変化は言語化させないと見えてこないことが多い。

→楽器を使ってみてはどうか。こここのころで、こんな楽器で、こんなふうに出してみた

「志を果たして いつの日にか帰らん」

→故郷に帰ってきたときに、どんな故郷であってほしいか

変わっていない風景をどのように守っていくか      そこを考えさせたい。

今の子どもたちの即した歌詞に変えてみたらどうだろうか。

自分の「ふるさと観」を考えさせて、そんな歌詞に変えてみるのもあり。

故郷に対するイメージや価値観はそれぞれ違う。

→それぞれの故郷をイメージして歌うことが大事なのでは。

発声、ひびき、スラーなど、歌唱の変容を音楽的に評価していく方がよい。

※次回は1月21日（木）19時～

学習指導案の検討 4名予定

（葉山先生（附属中）、阿賀先生（兵教附属小）、北さん、上田さん）